

新潟県

公民館月報

昭和59年9月号

発行所 新潟県公民館連合会
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一
編集人 事務局長 本田 清
【定価1部 100円 年共・年産 1,200円】

一生書

丸直書



生涯一書生

自らを戒める言葉とるか、人生を客観視した独白ととるか、読む者の自在というものだろう。

「書生」を、他人の家に寄宿してその家務を手伝いながら学業の道を履む者、とするのは、当世風というより、明治期以降の風俗語とすべきで、もともとは『後漢書』に初出し、学の道を極めようと努める者の意である。

この色紙の文字は、第二代県公連会長(昭二七―三四)丸山直一郎先生のものである。

先生は、丸直(マルチウク)さんの愛称?で多くの人に敬愛され、初期の公民館活動の飛躍充実をリードされた先達である。

政治家としても傑れておられ、ために後援者や支持者からの揮毫の依頼が絶えなかったが、書であれ画であれ、暇を盗むようにそれに応じておられた。

先生が逝かれて十五年、筆致に生前の風貌姿勢を偲ぶ。そして、「一書生」たれとの優しき叱咤を聞く思いがする。

文〓松本十三雄(前見附市教育委員会社会教育課長)

魅力ある公民館づくり

— 実用性と楽しさを —



「住民とともに歩む公民館活動はどうあるべきか」

去る七月二十六日、小千場

谷市民会館で開催された。第三十五回 新潟県公民館大会で行われたハネル討論をこ紹介する。

ハネル討論の登壇者 吉田一雄氏(小千谷市片貝町協議会長) 町内会長の立場)

杉本兼栄氏(長岡市子ども会指導者 会長) 社会教育関係団体の立場)

井川敏子氏(北魚沼郡堀之内町十五回会婦人学校) 利用者の立場)

司会 それではこれからハネル討論を行います。最初に、小千谷市片貝町の吉田さんどうぞ、公民館を地域づくりの中核に

吉田 小千谷市片貝町は、市の中心部から北へ約七㎞、戸数一三〇〇、人口約五四〇〇人である。公民館は支所の二階にある。館長は中央館長が兼務、館長代理を地区から推薦の上、教委から任命される。

小千谷市には三天の分館がある。地区館構想が社会教育委員の会議で検討中である。是非尋

石浜兼栄氏(前福原町若菜町社会教育委員長) 協会の立場)

吉川 弘氏(新潟大学教育学部教授) 研究者の立場)

星野行男氏(小千谷市長) 市町村理事者の立場)

司会 深谷 武氏(HK新潟放送局 オフサイバー) アナウンサー)

石井耕一(県公民館連合会長) 文中敬称略)

円形口の配置を設計した。公民館活動は、地域の住民が本気を取り組まなければ進展しない。公民館が生徒教育の担い手、地域の中核として、その中心に置きたい。住民の自発的意志、エネルギーを結集させ、地域の連帯感づくりを進める拠点として公民館を期待したい。

地区館分館が地域おこしの中心である。片貝地区でも、講座・学級を開講して効果をあげているが、地域の教育力を高めることだ。自分たちの地域のよさはこれだ

と誇りを持つていている者が増えてくる。特に、ボランティア講座の受講者が、受講後毎月一回集まって「わらび会」をつくり、ボランティア活動を続けている。

子ども会と公民館

杉本 私には、子ども会連絡協議会子ども会指導者の二つに關係している。

長岡市子ども会は、現在会員は二万二千人、三八〇団体である。指導者は現在五〇〇人であるが、子ども会の指導援助活動を行っている。最近では、海水浴やキャンプなどに出かけている。若い高校生や大学生からもっと入ってほしい。シュニアリダーの養成が進んでいる。指導者も育成会と子ども会の間に入っていく力になりたいと思っている。

子ども会を専門に指導する組織がまだ育っていないのが現状である。特に重要なことは、海水浴などの安全性をどう確保するか、それと映写会の技術的な面などの習得をどうするか。

そのために、公民館を使って学習会をもっている。資金不足も大きなネックになっている。

地域の連帯の中で 井川 私は、稲荷町十五日公民館入会後に所属している。稲荷町は現在一八〇戸である。住民がバラバラで、連帯感が薄くなってきたといわれる。もっと隣人愛を笑ひとていきたい。

ついで先年まで「風俗の使い」というのがあった。近頃ますます、コミュニケーションが深められた。愛郷心・地域連帯感・心の面が大切だと思ふ。

公民館は、地域に根づいた住民参加を、足もたらすコミュニケーションに近づけるべきである。一人ひとりがゴミが一つ拾いさえ、町はきれいになる。

今こそ顔を向け合う公民館を

石浜 岩室村では、昭和五十六年度に公民館が完成、その他施設間の充実がはかられた。それと並行に、住民の意識調査を行って来た。それによっていろいろ反省すべき点が見い出された。

立派な公民館が出来たが、施設管理にこだわりすぎ、おしつけがなかつたか。教育機関という立場で、気負いがありすぎたのでは。かたい、堅固という感じをもたれたのでは。など。

それで「集める」から、地域へ入りこむ努力と、組織体ばかり自分に向いて、住民一人ひとりの出会い、ふれ合いの場としての努力が不足していたと反省している。

昨年、ヨーロッパの社会教育を視察したが、行政主導型よりも住民主導型が主流。参加目的利用目的が明確、趣意をもって参加している。不十分な学校教育を補完するといふ役割がある。

われわれは、現在の「豊かさ」の中で、何か残した大切なものに気付く。謙虚に反省しなければならぬ。民間の教育機関が、まじりかただが、真に住民の心をついた身近な教育機関としての公民館のあり方を追求したい。住民も積極的にかかわってほしい。共に進む立場で本音を聞かせてほしい。

生運学習時代の到来と公民館の対応

吉川 生運学習の必要性についてはよく認識されるに至った。生運を通じて人々は学び続けなければならない。ということである。五十五年文部省が行った「モデル定住圏」での調査(上越市が入っている)では、学習を希望する人は、男五・三、女六・二である。学習希望者と実際の数は差がある。グループ・サークル学習で公的機関は四一・八%高い。

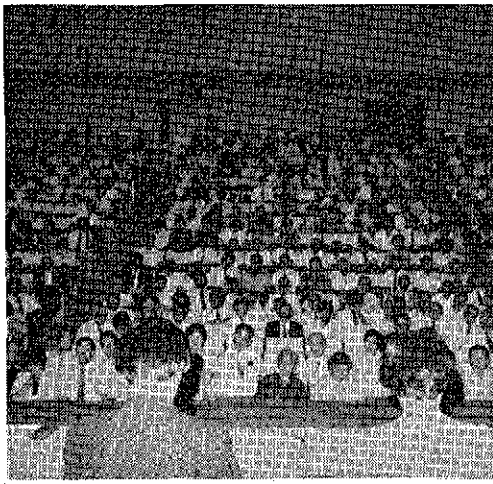
大阪大学で、民間の教育文化事業(福祉やパートで開催しているカルチャーセンター)の参加者に対する調査がある。それによると、講師が魅力的というのが五四・五%、講座内容が豊四二・二%、環境・設備が一九・九%。

が、

が、

が、

が、



パネル討議に熱心に耳を傾ける参加者

そして、愛護者の感情として、よかつた九二・四％、新しいことを学んでいく場四九・六％、更に、イメージとして、業しいが、男四九・四％、女五八・八％、充実している、男一八・六％、女二一・八％であった。これを知り、自治体の社会教育のイメージで、つまらないは、男三九・九％、女三二・一％という調査データである。住民は、イメージに回っているのか、反省すべきはならない。い。

有効適切な公民館活動

星野 公民館の究極の目的は、住民の自治能力の向上にある。と第五次の答申文にあるが、全く同感である。

「その国の政府は、その国民

以上のものでもなく以下のものでもあり得ない」といわれているが、「市町村行政も、その市町村民以上でも以下でもない」といえる。

住民の資質を向上し、時代感感を養うことが重要である。

公民館は、①施設設備の整備 充実 ②組織・リーダーの養成 ③公民館の理念を明確におさえ ④具体的な活動の展開。の四点が重要と考える。魅力のある運営活動を進めれば、住民は自ら集まる。小千谷市では、市政施行三十周年記念の講演会を寿以来実施しているが、いつも満席で好評を得ている。企画・内容がものをいうと思う。

公民館の歌で「郷土を興す喜びも、公民館の集いから」とある。新鮮線も明春上野駅始発。

明秋には国産自動車車が全線開通、首都圏と直結する。これに対応する住民の意識、具体的取り組みはどうか。

また、産業振興、職業意識の変化も見がせぬ。これから重厚大型から軽便短小型、重工業型から先端産業型へと大きく変容する。それに対応した方向づけ、地域おこしの活動が求められる。

次に、温故知新、歴史・伝統を尊重して、地域への生きがいを生み出さねばならない。

「郷土にゆりかぶかしても」「郷土に生きる業々」との公民館の集い……。魅力ある公民館、愛される公民館を目指したい。

魅力のある公民館活動を

司会 ひとおりの発言はただいた。「魅力のある公民館活動を」という、核心にふれた発言もも聞きした。補足の発言をもう一度お願した。

吉田 片貝町では、今から三年前の安永八年、すでに「私塾」が開かれ、子弟の教育が行われていた。そして毎年「教育碑」の前で「教育感謝祭」を行っている。このような教育風土を受け継いで、これが原点となって、現在の町への集会所、地域振興会、文化祭、芸術祭などが公民館を中心に進められている。

司会 先ほどの発言でも、集まりがよくなる、といわれていたが片貝の様子はどうか。

吉田 町づくり委員会には、多数集まった。しかし、一般的には、あまりよくない。

杉本 長岡市の公民館は、都市型と農村型の二つに分類できる。魅力ある公民館とどう違うか、子ども会に関する内容の事業をお願いしたい。特に、リーダー養成を継続的に取り上げたい。

井川 気楽なもの、よかつたといわれるのを望みたい。心のなにもは、通りついでに広がりがなく、行政のタテの系列で同じことが別々に下りてくるが改善してほしい。学級なども、行政主導ではなく、住民主導で開設・運営したい。

石浜 類似の活動が統合するので困ることがある。農協で行われる学級、講座も、対象・内容等が公民館と類似する。結局は中味で参加することになる。公民館では、開催・時間・飲食など、ある程度の規制をせざるを得ないが、他の機関のそれは規制が少ないようだ。公民館としても、二十五年の努力が必要と思ふ。

吉川 大都會では、カルチャーセンターが盛んであるが、公民館の役割はない。

住民の期待を知り、効果を生み出す努力が必要である。期待

より効果が低い時は人は去り、期待よりも効果が高い時は人は積極的に参加する。

先ほど紹介した調査でも、自治体社会教育の体験者で、実用性ありが三五・九％(全体平均二八・二％以下)、書き読みがある二八・二％(一六・五％)、楽しい二五・四％、となっており、全体として、食わず嫌いであるといえる。大都會で公民館を経験したことのない人が多いので、あのような数字が出たものと思われる。要は「実用性と楽しさ」にポイントをおけば公民館も魅力あるものになると思う。

司会 核心にふれた発言があった。皆さんのご意見を承わりたい。

熊倉(加茂市) 公民館活動が食わず嫌いにさせているのに、ネーミングがあると思う。公民館は面白い感じがする。市民館は親しめるが、ロジックは賛成できない。学級・講座よりセミナーとしたい。

吉川 公民館は教育機関である。「教育」といって響くし、く感する。「公民」という言葉は、昔からの「公地公民」、戦前の教科として「公民科」にある。公民館が標榜されスタートした時は「よき市民」「グッド・シチズン」を「公民」と表現している。それが公民館

は、今日一般住民根づいてる。むしろ、身近な活動の場として定着している。

ネーミングは重要であるが、内容は内容である。事業計画のポイントは、①参加条件、参加しやすさ。②参加して楽しいかどうかの気配が、暖かい感じがさせない。③ここにネーミングがある。④給になる。効果がある。得るものがある。⑤それに、よく知られている。PRの問題がある。

青空公民館時代の気迫

石井 公民館という呼称は、今口議である。ところで大都市には公民館が少ない。川崎市の話も承わったが、東京都の中心部二十三区に公民館が一つもない。

公民館の施設設備が立派になったが、役所的なところがあると指摘されている。反省が必要。かつての「青年市民館」といわれた頃の気配が除きおそめたといわれている。

戦後、郷土建設、日本再建の推進力として公民館の設備が働かされたが、その「中核」でいう、村の茶の問、市民主義の道場、郷土振興の拠点、などのおもかけがなくなった。といわれているのは残念である。休憩口を設けているのも目につく。

新しい時代に対応する、改めて原形を立ち返って、これからの公民館は何かあるべき

かかると。

豊島(若狭中津輪地区) 青山公民館を紹介したい。故川市兵と二十年前から対話続け要望を述べた。四年前に新築された。土地と建物は市で負担。運営は地元と行うことである。地区内(湖山・青山)から百円ずつ徴収し、自主的に運営している。自分たちの公民館という親しみがあり利用率も高い。新築に敬意を表する。役員の出発点を承わりたい。

吉田 館長は、市の公民館長が兼任。館長代理は、町協会で推薦し、市教育委員会から任命されるというしくみである。

司会 時間も少なくなってきたが、最後、石浜さんと星野さんからうたい。

石浜 住民側の食わず嫌いはたしかにあると思う。行政と住民との間に立って、関連する機関とも連絡を密にして、魅力のあるものに努力したい。住民側も、もともと公民館に顔を向けたい。

星野 住民はお客様である。お客様は「一人ひとりの好み」をもっている。一つの「ものさし」だけでなく、いろいろなニーズをもって対応するよう努力したい。

司会 今回の貴重な意見ありがとうございました。

かかると。

豊島(若狭中津輪地区) 青山公民館を紹介したい。故川市兵と二十年前から対話続け要望を述べた。四年前に新築された。土地と建物は市で負担。運営は地元と行うことである。地区内(湖山・青山)から百円ずつ徴収し、自主的に運営している。自分たちの公民館という親しみがあり利用率も高い。新築に敬意を表する。役員の出発点を承わりたい。

吉田 館長は、市の公民館長が兼任。館長代理は、町協会で推薦し、市教育委員会から任命されるというしくみである。

司会 時間も少なくなってきたが、最後、石浜さんと星野さんからうたい。

石浜 住民側の食わず嫌いはたしかにあると思う。行政と住民との間に立って、関連する機関とも連絡を密にして、魅力のあるものに努力したい。住民側も、もともと公民館に顔を向けたい。

記 参 加 の 大 会

第三十五回新潟県公民館大会に参加された六百数十名の中から、無作為で三十五名の方に感想文をお願いしたところ、二十六名の方から原稿をお寄せいただきました。先号と本号の二回に分けて、「紹介」します。

濾過的役割を果す

吉原 芳郎



パネルディスカッションで感じたことは、成程にして一応磨られるものは、それは一部であって、全体としては公民館活動がいかに難しいかを知った。

他地区では我々以上に活動しているのではないかという焦りみたいなものを感じていますが、各地区とも右任左任しながら、与えられた仕事を何とか消化しているのが実態で、見方によって「責任」にさえ思えば、生協教育など広げたい。身を引きしめる

たようなものが余りにも多く、毎

出出席することまでできなくなる。こうなる公民館は、与えられた仕事をその都度処置するのではなく、まわりの関係機関や団体と図って、多少の制約を加えても

統一した形で、いわば濾過的な役割を果たさなければならぬ。

初心にかえって

安達みさを



公民館主催の辞令を頂き、無我無中で勤務して一年。このたび新潟県公民館大会に参加させて頂きました。

「住民とともに歩む公民館の活動はどうあるべきか」始めて聞く公民館の歌、改めてこの一年を振り返って見ました。原稿にたちまち返すって、威力のある公民館との誇り、また、人間尊重の精神、生活教育の向上など、改めて活動の

「公民館」のネー ムを大切に

鈴木トミエ



地区公民館の指導員として、直接奉仕にあたられる私にとって、「住民と共に歩む公民館の活動は」

「公民館」といふ名前は守りたく、堅苦しいのではないかと、ニックネームをつけたい。例えば、市民館のように

地区公民館の指導員として、直接奉仕にあたられる私にとって、「住民と共に歩む公民館の活動は」

「公民館」の灯は 燃え続けている

渡部 一郎



「公民館（健全なり）」我々を意味する一人悦んでいる。といった状態の参加者、私一人ではないのであるか。

な」との質問がありました。

「公民」とは「よき市民」という意味であり、今は公民館という名前が住民によく知られているのかから、このままでよいと思う。」と答えられました。

第二次大戦によりすべてを失った日本の地域社会に、社会教育の場としていち早く建設された公民館。そして、日後活動におしみない情熱を注いだ先人の努力を思う時、やはり「公民館」というネー

公民館の成立の根拠がなんであるのかを学ぶことが、住民と共に歩む公民館活動への指針となるのではないかと、思うのです。

立教大林教授の「住民」として「公民館」とし「純粋な活動のある」

職員自身 脱皮の時

市川 和弘



立教大林教授の「住民」として「公民館」とし「純粋な活動のある」

午後のパネル討議で石浜主宰は、「農協と公民館」と同じ事業

私は「公民館」は「健全なり」としての調査や視力、現場での中心者である職員、行政責任者がそれなりの深い意義が表現されている。

公民館の等級・階級は、他の機関の行うそれらと比べると、概して

地域での生活教育活動が行われている。これら機関でもなされている。これは、歴史の長い公民館活動がどうあるべきかと言っているものではなからうか。

公共であれ私的であれ地域住民が幸せになろうという望みを持つ続ける限り期待があるはずである。

「魅力」を失くすまらぬのも「公民館」の大きな強みである。公民館が他の機関と同じ事業でやるように思われません。

公民館が他の機関と同じ事業でやるように思われません。

「公民館」は「健全なり」としての調査や視力、現場での中心者である職員、行政責任者がそれなりの深い意義が表現されている。

私は「公民館」は「健全なり」としての調査や視力、現場での中心者である職員、行政責任者がそれなりの深い意義が表現されている。

私は「公民館」は「健全なり」としての調査や視力、現場での中心者である職員、行政責任者がそれなりの深い意義が表現されている。

私は「公民館」は「健全なり」としての調査や視力、現場での中心者である職員、行政責任者がそれなりの深い意義が表現されている。

第35回 新潟県公民館

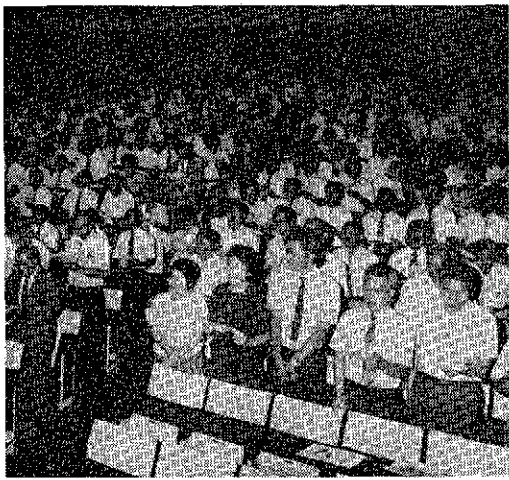
基調講演に石井 会長の出席を

石井 邦治

基調とは、集会小千谷市制三十周年記念の企画や
などで討議すべき立派な運営と共に高く評価した
基本的なテーマの
ことをいう。この
意味からすると、
昨年の新井大会の
基調講演は新井草
々の新米公民館長
としては理解でき
しんだ。

戦後の社会教育にとって公民館
重視の中心構想は、地域に根をお
ろし、社会教育はその誕生を認
知された歴史を初めて教えられ
た。

今年の小千谷大
会は、「住民」と
もに歩む公民館活
動」という主題に
や活動なまらつた雨は公民館の仕



公民館の歌「自由の朝」の全員合唱

ふさわしく、立事
大の林伸郎教授に
よる「住民」と
て公民館とは」の
講演は、時宜に適
した内容であり、
事とし、生涯教育の場、住民自治
能力向上の機会となる、公民館の
今後に寄せられる期待は大きい。
余公連等五次専門委員の各甲「生
活」を読みながら、県公民館の

住民とともにを 肌で痛感

嶋津 一男



私は初めて参加させて頂き、今
まで知らなかった部分を考えさせ
られました。
その一つに初歩的な事でありま
すが、公民館というものの意味が
あります。日常何気なしに使っ
ている言葉ですが、辞書を引いてみ
ますと「市町村民の文化教養の向
上を図るために建てた建物」と書
いてありました。そして35回大会
のテーマは「住民とともに歩む公
民館活動」とあるべきか」であ
りました。また、林先生の基調講
演は「住民」として公民館とは「
歩む」とありました。

私は農家で今までもあまりしてい
うことは考えられておらず、今
市での広報に公民館の講座

生母の存在の石井会長さんから
基調講演への出席をお願いした
こと。中魚沼郡川西町公民館長
教育委員長

が載っています。部落の人々は
参加する時間のゆとりはありませ
ん。「生涯教育時代」即ち「公
民館のあり方」も答申されたよう
であります。とても矛盾を感じて
きました。時代の進歩とともに要
求も多様化してきた現在、市民と
共に歩む公民館活動の必要性を肌

職員の研修が 重要

皆川 昭



県公民館大会に参加して私の感
想及び今後の抱負について述べて
みたいと思います。
パネル討議では、それぞれの立
場からの意見を聞くことができ、
公民館に異動し、間もない私に
は、参考になるのではかりでし
た。

その中で印象に残っているの
は、古川先生の公民館の行方、学級

に強く感じました。次第です。
新潟市の人が事例を発表してい
ました。建物を出発点として、
を徴収して自分達で、というこ
で自負していました。建物は木造
からコンクリートになりました。

コミン・センは 公民館の敵か？

小千谷市で行われた県公民館
大会で「優良公民館」として表
彰された市北館石公民館の受
彰祝賀会に招かれて出席した。
この祝賀会には、歴代の館長
さんや職員をはじめ現在の公民
館関係役員、地区内コ
ミン・セン関係役員
顔が揃ってきわめて盛會
であった。

この祝賀会でのクライ
マックスは、公民館地区
指導員の神林さんと、地
区コミン・セン指導員の
小野塚さん二人による
「大監監」の踊りであ
った。

まさしく呼ばがビッパ
リと合ひ、二人が一体の
ように感じられるすばら
しい踊りで、この日出席
しておられた阿部元館長
さんの「公民館とコミン
・センは一体」という、口頭
の心算を、その人々がコミン
・センいへりを進め、またコ
ミン・センいへりを進めるとの
民館活動がさらに進められる
であった。公民館とコミン・
センは建物の敵か？と云ふ
は、地球の敵か？と云ふの
いはらか。

(柏崎市中央公民館
参事兼事務長 徳間助夫)

公民館番頭日記

私が改めて申し上げる
までもなく、昭和四十六
年の社会教育審議会の変
化に対処する社会教育の
あり方については、「公民館
の新しい役割」として、次
のように記されている。
「コミン・センター
の性格を含む広い意味で
の社会教育の中心施設と
して……とくに新しいコ
ミン・センの形成と人間
性の伸張に果たす役割が
重視される……」と。
公民館を中心とする生
涯学習活動が地域の人々
の心を育て、その人々がコ
ミン・センいへりを進め、またコ
ミン・センいへりを進めるとの
民館活動がさらに進められる
であった。公民館とコミン・
センは建物の敵か？と云ふ
は、地球の敵か？と云ふの
いはらか。

(柏崎市中央公民館
参事兼事務長 徳間助夫)

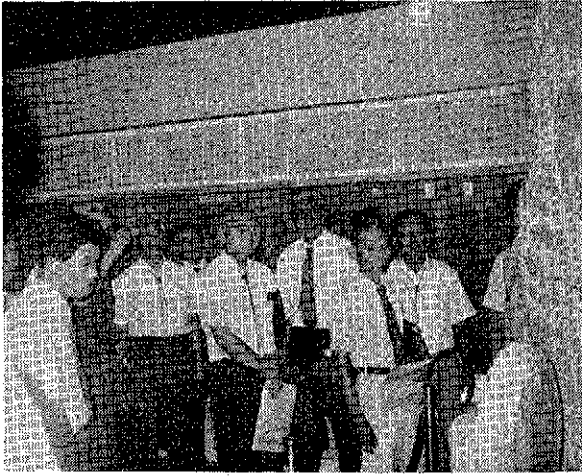
公民館活動を問
い直す時期

遠藤 晴郎



たもうと思う。
林先生の基調講演で、この活動が学校教育後の社会人の学習の場(生涯教育)として位置づけられ、しかもこの教育は何等の制約がない(自由に、その地域の人達が積極的、能動的にこれに参加し学習する)気運を作ったゆえか、ねばならないとの要旨は、今までやってきた行事を思い合せて、改めて活動振りを問い直す時期にきていることを痛感した。

公民館活動の原形に立ち寄り、もう一度見直そうという今回の県大会は、私のような新米分館長に、発せられた。住民の一部のものは、ちょうどよい勉強の機会であつたし、私なりに少しは理解できはならないか、堅苦しくない活



大会終了後サンプラザの木陰風に見入る大会参加者

動のために、参加し易い、参加し、楽しい、参加して益になる、あゝ急遽に変化する社会に適応した活動の展開していただきたいものである。
(長岡市深才公民館・分館長)

初参加

よい勉強に
小林 龍童



今年四月公民館活動の何たるかわからないまま館長に就任し、始めて新潟県公民館大会に参加しました。

公民館の歌合戦に始まり開会式に続いて「住民にとって公民館とは」と題して林 伸郎先生の講演をお聞きしました。川崎市の例等で大都市とわが地域との実態が違つたため、ある程度の理解はできた。したが、難しく戸惑いを感じました。

引続いてのパネル討議は、学識経験とも豊かな名前の先生が「住民とともに歩む公民館の活動はどのようなべきか」のテーマで、それぞれの立場から案外にも手厚い問題提起、それに対する参加者からの質疑応答と公民館の今後のありべき姿について、真剣に話し

新しい発想からの戦術

阿部 孝

公民館の仕事は何と漢としていふのだから。大義の企画、本年四月の異動で公民館長補佐を拝命した私の素直な感想である。それゆゑ、第35回県公民館大会は「市民の潜在的な文化的欲求に応える新しい活動の糸口が見つかるかも知れない」と、秘かな期待で参加した私であるが、何かドテラの上から背中を掻(か)くもどかしさ(似た感じ)であった。高速交通時代、先端技術産業の定着なく、新しい時代に対応した地域開発が進んでいるというのと、さて地域の奉仕的の活動となると参加が少くない。体育、パレの練習などもなれば一人欠けも十分な効果が望めない等理由はいろいろあるにせよ地域の奉仕的の活動への参加となるとさっぱり難い。

公民館の学習に

藤田 禮子



公民館は種々の学習の中にあつて、公民館は種々の学習の中に受講者の奉仕的精神の養成が必要である。

「今日は公民館の歌の日です。かへんして」
「明日はパレの練習です」

に、公民館の現状は過去の経験に照らした目標設定に思ふとならなかつたし、人びとの知的欲求、あそび化、高度化、多様化に果たして思えらるるのだからかと危惧の念を述べられた。

農林・福祉行政に傾倒され、民間教育産業の追求を受けている公民館活動は、新しい発想と新しい視点から戦術・戦術を編み出す必要性がありはしないか。文化情報の二元化とサービスシステムへの取り組み。地域づくりへのかわり方。挑戦する目標が行政組織の中で横断しているだけに、コミニティ活動の推進体制の戸内での位置づけも今後組

に果せていきたい。

公民館関係法令・解説

◎内容

教育基本法・社会教育法・社会教育法施行令・公民館の設置及び運営に関する基準規程・通達「公民館基準の取扱いについて」解説つき。

A 5判34ページ 1部300円 (送料実費)

◎お申し込み先

〒951 新潟市川端町2-9 県林業会館内
県公民館連合会事務局 電話 0252 (24) 6073

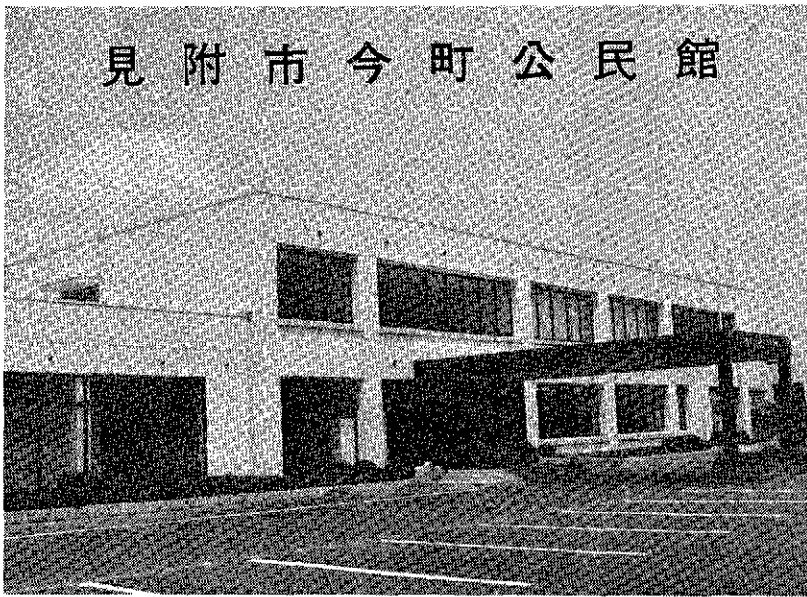
公民館長・公民館主事・公民館職員・公民館運営審議会委員・社会教育主事・社会教育委員・教育委員会関係者・公民館を利用する人・社会教育関係団体関係者等の必携の書として広く活用されています。

新生公民館繁盛記

(40)

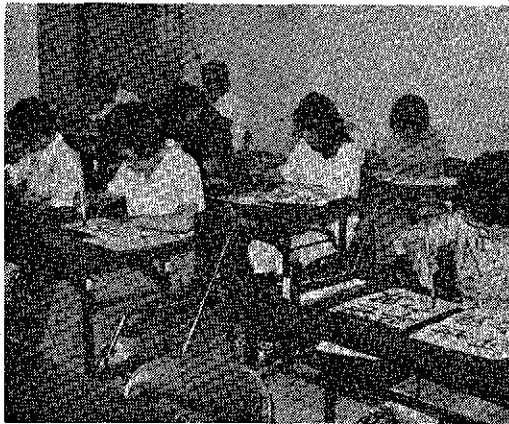
明るい市民の茶の間

これからの地域づくり



上 今町公民館全景

中 書道教室



公民館は花ざかり、これまでにすでに四十五館の公民館が登場。好評をいただいています。これからもう少し紹介します。

かえりみて

旧今町徳富町書道館に、当時として時代の先端を行く懸架鉄骨二階建、しかも県下でも珍しい吊架式ガス暖房施設を備えた今町公民館の竣工式に、小林前館長が副館長(館長欠員)として謝辞を述べられたのは、昭和三十六年三月のことであった。

そして、本年一月、国道八号線沿いの造成住宅団地の一角に、近代的装いも新たに移転新築された新公民館の竣工式に、再度謝辞を述べて、三月末をもって館長の職を譲渡されたのである。

改めて、この二十三年の盛月の

流れを感ずるとともに、小林前館長の片腕として、旧公民館の新しい運営に心血をそそぎ、一貫して公民館人として終始、情しきも昨初夏遷された大島順平氏の業績とご褒美をなつかしむ私情を、許していただきたい。

現在のすがた

新公民館は、都市ガス熱源の空調施設を備えた明るい構造で、大集会室をはじめ、会議室、研修室(二)、団体活動室、視聴覚室の他、水盤を備えた本格的茶室も

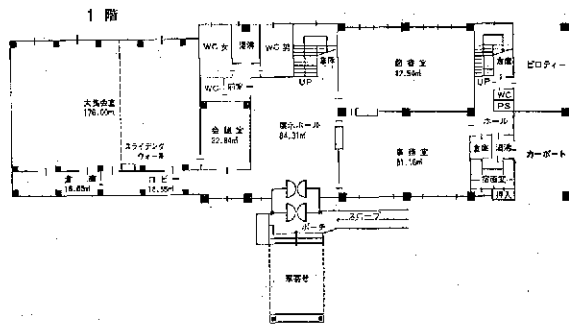
り、調理室は五台の調理台をセッとした三十名定員のゆたかりしたスペースがある。また、図書室は開館時間中は常に開放され、快適

これからの課題

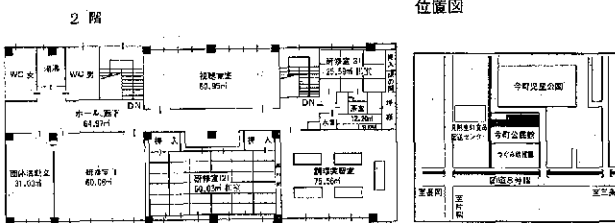
しかし、公民館本来の使命が、住民の自主的、積極的な学習活動コミュニティづくりへの参加意識の育成であり、団体活動の広がりや、地域づくりへの広がりが、高まることにある。この新しい空気を、新公民館の出発を機に、諸施策を見直し、体系化を目的として対処していきたくと模索している現在である。

(今町公民館長 徳田文雄)

施設見取図



位置図



あの頃のこと

思い出の記

小杉 説次郎

村上町公民館主事に

私は、昭和五年三月新潟師範学校の卒業生として、当時の小学校で十二年間教職を勤めた。そして、また若さの頃は、私は、国策遂行の第一線で、夢につかれたような気分が、当時の満洲国にあり、教育関係の仕事に従事したのである。

敗戦直前の昭和二十年七月中旬、郷里村上の上を踏んだのは十一月十日であった。

無一文の私であった。安堵する暇もなく生きるための就職活動が始まった。自分に出るべきところから北鮮経路で、妻と子供を連れて、

筆者紹介



村上町中央公民館の当時村上町草創期の、生えぬきの主事

館長として活躍。
また、村上町船舶公民館連絡協議会長として、県内の公民館活動にも、県公連理事として、積極的に関与して、全県を回りまわられた。

その後、村上町助役の要職につかれ、更に、県議会議員として、文教、福祉、産業振興等に活躍された。

お住まい：村上町市西二丁目

私は、体内の血が逆流するほどの怒りを覚えた。私の就職復帰の願いは、この瞬間キリリと切れてしまった。そして私は、教師仲間に対する強い不信と反感を持つようになった。

その後私は、多少捨鉢の気持ちもあって、古物商の無礼を受け、古く屋となく、アチコチのセリ場や町や村の市場などを渡り歩く行商の生活を続けた。

そんな頃、「公民館」という今までの聞いたことのないものが、村中にも誕生していた。しかし生活に追われていた私にとっては、全然無縁のものであった。

昭和十五年四月、町の公民館運営協議会が開かれて、村上町でも公民館主事をおくべき、ということになった。その時、運営協議会の委員長が、私の脚節であり、大先輩の村上小学校長松田先生であった。

運営協議会の会議では、主事の採用については、松田校長に任ずるということになったらしい。

松田先生が最初に私の仮任書を訪ねられたのは、四月の下旬であった。その時の先生のお話によれば、事情が推察できた。先生は「あの小杉君、私の責任を必ず背負って公民館主事をする」と言明されたのである。私は先生のご好意に対しては感謝の念でいっぱいだったが、私としては、

「教職者でありついで校長室に行こうとした時、私ほの場面に立ちこんでしまった。教室室の大きな黒板の下の真ん中、赤十字のマークが描かれていた。大勢集まっていたのである。私は、後頭部を丸太で殴られたような衝撃を受けた」と同時に、心臓から腹が立つて仕方がなかった。

すなわち先日の終戦の前までは、祖國の隆昌を夢見て、心たむきに子弟を育てていたであろう教師仲間が、一転して「日給上げ」のストに参加するとは……。

当時を思い出せば、進め進めシベリヤや中国などの外地には、困窮もあつた。幾十方の同胞が、寒さと飢えと闘っているのと思うと、

の家へ足を運ばれた。九月までの間で数回を数えたと記憶している。そして先生は、小杉君、君がそんな仕事をしているのは、誠にいけない。とにかく、君が承知するまでは、僕は絶対に認めないから、一歩も引き下がらなさいと云う。それなら、先生のご来訪に感謝し、三顧の礼に抱え受けなければ」と、心に思いながら、私の決断はつかなかった。

九月に入ってからは、私の調子中に「正義」を説かれたのである。亡業としては、当時はなかなか、一貫して行商を始めたばかりで、経済的自立が第一で、公民館活動には不安要素もあり、反対意見もあった。しかし、先生の度々なる熱心な説教に、とうとう降伏してしまつたらしい。「先生の指摘もあるし、いつまでも承知しないと小杉のヤツ、いい気になつてゐる」といわれても悪いから、二、三か月が半年くらいの勤めをしてみようか、私にも不安はありますが、精いっぱいやってみますから」と、逆に私を納得するように言つてしまつた。それでも私としては、依然として気が進まなかった。

その理由が、①公民館とは、いったい何なのか、全然わからぬ。公民館とは、暇人のための施設であつて、生々しい血の匂いのような日々を送つていた私は、全く無縁の存在であると思つてゐた。②公民館という看板があるが、中学校の職員室の一隅に置かれ

だと言いつて、侮辱されたやうな気がした。③正規職員ではないが、職員身分上の保障は何もない。④引き揚げ後約四年目にして私に、辛じて、旧い家ではあるが自分の「すまい」を手に入れ、まがりなりにも、生活の基盤が出来かかつてゐた。それが後退するのではと、危険の念があつたのである。

更に私の心の奥底には、アメリカの占領政策遂行の手先に使われるのは、と、不快感にも似た反発があつたのもたしかであつた。

いろいろの気の進まない理由にもかかわらず、昭和十五年十月、私は重い腰を上げて、遂に村上町公民館主事になったのである。

元村上町中央公民館長、元村上町助役、前県議会議員

公民館の絵画教室での製作、利用グループの中で絵をすすめる人の作品など、なるべく各々位置で書かれたもの。

絵の内容は「石原 貞、文化財」などのほか、表紙に「さむらい」のあつたものであつた。これは、公民館の歴史を、説明する四コマ漫画を描いてみる。

◇いよいよ秋本番です。秋は、いろいろな顔をもつており、魅力いっぱいの季節です。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、行楽の秋、味の秋、栗の秋など……。

市町村の公民館でも、多様な事業、活動、大忙しの毎日と存じます。

◇「日記を説き及ぶ」を二年間にわたつて連載くださつた、松本十三雄氏は、最終回「丸直先生」で締めくくってくださいます。その「丸直先生」から表紙に登場した

◇本号では、去る十月大会のパネル討論の内容を紹介いたしました。また、助役に引き続き「参加の記」を掲載しました。玉藻を急ぎました。いの方々が厚く御礼申し上げます。

◇本号から、元村上町中央公民館長の小杉説次郎氏に「思い出の記」をお出ました。いただきました。次号から掲載に入ります。ご期待ください。

◇さて、この「公民館月報」は県内公民館関係者の「サロン」です。思いのついでに、気軽に「ご意見」を、随分と「意見・提言」体験、もちろん大失敗も含め何なりと発表してください。皆さんの「活躍」な、楽しいサロン、にしたいのです。

募集 (表紙絵) 色紙

公民館の絵画教室での製作、利用グループの中で絵をすすめる人の作品など、なるべく各々位置で書かれたもの。

絵の内容は「石原 貞、文化財」などのほか、表紙に「さむらい」のあつたものであつた。これは、公民館の歴史を、説明する四コマ漫画を描いてみる。

あとがき

◇いよいよ秋本番です。秋は、いろいろな顔をもつており、魅力いっぱいの季節です。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、行楽の秋、味の秋、栗の秋など……。

市町村の公民館でも、多様な事業、活動、大忙しの毎日と存じます。

◇「日記を説き及ぶ」を二年間にわたつて連載くださつた、松本十三雄氏は、最終回「丸直先生」で締めくくってくださいます。その「丸直先生」から表紙に登場した

◇本号では、去る十月大会のパネル討論の内容を紹介いたしました。また、助役に引き続き「参加の記」を掲載しました。玉藻を急ぎました。いの方々が厚く御礼申し上げます。

◇本号から、元村上町中央公民館長の小杉説次郎氏に「思い出の記」をお出ました。いただきました。次号から掲載に入ります。ご期待ください。

◇さて、この「公民館月報」は県内公民館関係者の「サロン」です。思いのついでに、気軽に「ご意見」を、随分と「意見・提言」体験、もちろん大失敗も含め何なりと発表してください。皆さんの「活躍」な、楽しいサロン、にしたいのです。